

町長日誌 No.203



町長日誌の第 203 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

9月17日(木)

今日は穏やかな秋日和です。幸いなことに 10 号まで発生した台風は全て朝鮮半島方面に進路を取り 11 号もかなり西よりへ進むようです。今年はこれまでの気象データに寄れば 9 月に台風の多い年になる予想であったのですが、9 月前半の異常な高温が影響したのか台風の影響を受けない 9 月になりそうです。

一方、国政はまさかの安倍総理辞任に始まり、まるで大型台風のように菅総裁誕生へと自民党は流れを作り、昨日新しい内閣が誕生しました。コロナの終息そして経済の立て直しなど大きな課題は山とありますが期待をして見守りたいと思います。

8月24～25日(月～火)

バイオガス事業の打ち合わせと視察を兼ねて久しぶりに十勝に行ってきました。層雲峡を抜け三国峠を下り上士幌に入るルートで向かいました。驚いたのは層雲峡温泉街の大型ホテルの閉鎖です。私たちが小学生の修学旅行はホテル層雲で宿泊でしたが、これはかなり前に閉鎖し草木が生えており他の大きなホテルも閉めていました。今年 1 月まで海外からの観光客が多かったはずなのですが隔世の感がありました。十勝では士幌町の小林町長にお会いし昨年オープンした道の駅を見てきました。実はここで販売されているソフトクリームは興部町の製品なのです。スタッフが全道のソフトクリームを試食して決めたとのこととても嬉しいことです。午後には帯広市長や帯広畜大の梅津教授とお会いしました。翌 25 日には鹿追町長とお会いし、その後バイオガスプラントや水素ガス試験プラント、マンゴー栽培やチョウザメ養殖を見せていただきました。マンゴーは一枝に一個だけ

実を残す作業が大変な事、チョウザメが卵（キャビア）を採取出来るまでに 8 年も掛かることを聴き驚きました。また、バイオガス施設の腐食の進み具合や発電エンジンの耐用時間など当町より 10 年早く稼働しているプラントですから参考になることが沢山ありました。

9月5日(土)

心配された雨も早朝で止み、今年で 10 回目となる「おこっぺマルシェ」を見て歩きました。国道に面した商店街の空き地や空き店舗を利用した様々な商品の販売、音楽やダンスイベント、そして既存商店にもお願いしてのスタンプラリーと様々な工夫を重ねて 10 年が経ちました。この企画は「興部町まちづくり研究会」等町民有志が行っています。今年はコロナの関係から町民の出店に限定したミニマルシェとして開催しましたので、来年大規模な 10 周年マルシェとして開催するそうです。しかし、予想以上の人出で、私の大好きなから揚げもお赤飯もすぐに売り切れでした。売る人も買うものんびりと楽しみながら秋の一日を楽しめる素晴らしい取り組みに感謝しています。

9月15日(火)

コロナのため開催を悩んでいました敬老会を行いました。例年よりも少し参加人数が少なく来賓も二人だけにさせていただき、余興も開基 80 年の時の記録映画上映を行い開催時間も短縮して行いました。参加された皆さんからは「50 年前の町の様子が懐かしかった」、「久々に皆にあえて嬉しかった」などの声が聞かれ開催して本当に良かったと思えました。なお、今年町内最高齢者は仲町の厚谷美代子さん（満 100 歳）です。高齢者の皆さんどうかお達者で!!

今、道内では寿都町と神恵内村が原発廃棄物処分場誘致ための文献調査の是非が毎日報道されています。片岡町長も高橋村長も北海道町村会の理事として一緒に仕事をさせていただいています。お二人とも住民からの信頼も厚くとても一生懸命な首長です。特に片岡町長が住民に投げかけた問題は私たちの問題であり決して他人ごとではありません。何故なら、私たちもこれまで原発の電力の恩恵にあずかってきたからです。しかし、この二つの町の問題はそんな単純な問題ではありません。漁業や農業の大規模なオホーツクとは異なり全ての一次産業が衰退し町の存続が危ぶまれているのです。その中で日夜悩み続けた町長の決断を簡単に批判出来ないとは私は考えます。

さて、天高く馬肥ゆる秋、町長はダイエット中です。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

